

カトリック

広島教区報

No. 84

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
原田豊己神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082)221-6017

平和の使徒推進本部「年間テーマ」
東日本大震災関連記事・J-CaRM
各地区情報・教区内の施設・海峡からの風
青少年情報・ひと粒

二・三面
四・五面
六・七面
八面

大祝日・復活祭

広島教区長
ヨゼフ・三末 篤實 司教

(一) キリストの復活の大祝日にあたり、心からおよろこびを申しあげ、皆様と共に祝いしたいと思いま

す。キリストの復活は教会の中でも最も大きな祝日ですし、最大の秘義であり奥義

です。私たちはこの復活の信仰を通して将来キリストの復活に与かり永遠の救いを得ることができ

なりません。将来、キリストの復活に与かるために

日々の十字架を背負ってキリストに従うとき、私たちも約束された主の復活に

遠に生かされることを信じ希望とよろこびをもって日々の生活を励んで参りたいと思

います。(二) 二〇一一年度の広島教区のテーマ

広島教区は一つの大きなテーマ「平和の使徒とな

らう」を毎年かかげ、サブテーマとして今年度は「社会における信仰の証し」を決定いたしました。

教会憲章(三十三番)の中

に「信徒の使徒職は教会の救霊活動そのものへの参与であり、すべての人は

洗礼と堅信を通して主自身からこの使徒職へ任命され

(二面へ続く)



ご復活おめでとうございます

広島教区長 三末篤實 司教
司教総代理 斉藤眞仁 神父

教区本部事務局 平和の使徒推進本部事務局 広島司教館	原田豊己 神父 肥藤修司 神父 野間重信 神父 長谷川儀 神父	倉敷地域共同司牧チーム 倉敷・玉島・水島教会	野中 泉 神父 ブレース 神父 ギャリー 神父 バルト 助祭	下関労働教育センター 出雲教会 津和野教会	中井 淳 神父 林 尚志 神父 高橋義博 神父 西山和男 神父
広島地区 (地区長) 鞆町教会司牧チーム	後藤正史 神父 アルベルト神父 ステイブ神父 斉藤眞仁 神父 山根敏身 神父 カトレット神父 ジェロム 神父 原田豊己 神父	玉野教会 津山教会 倉吉教会 鳥取教会 米子教会	金 起璧 神父 ワレレ 神父 関 亮一 神父 野崎一夫 神父 西江和司 神父	益田教会 浜田教会 山口修道院 長束修道院	李 相源 神父 加藤信也 神父 カンガス 神父 柴田 潔 神父 小崎次郎 神父 恩地 誠 神父 バリヨヌエボ神父
呉教会 廿日市教会 三篠教会 三次教会 翠町教会 三原教会 尾道教会 福山教会	肥塚修司 神父 アルバレス神父 アルベルト神父 アルナルド神父 服部大介 神父 山口道晴 神父 パトリック神父	防府教会 萩教会 岩国教会 周南地域チームミニストリー 徳山・下松・光・柳井教会	山口教会 李 相源 神父 加藤信也 神父 カンガス 神父 柴田 潔 神父 小崎次郎 神父 恩地 誠 神父 バリヨヌエボ神父	アルティリオ神父 モラーレス神父 オレギ 神父 中村健三 神父	モラーレス神父 オレギ 神父 中村健三 神父
向原教会 松江教会 岡山・鳥取地区 (地区長) 岡山・岡山南教会	深堀升治 神父 萩喜代治 神父 萩喜代治 神父 李 尚潤 神父 アンリ 神父	宇部小野田ブロックチームミニストリー 宇部・北若山・高千帆教会 アレックス神父 三喜田虎太神父 アルカラ 神父 池尻廣幸 神父	宇部小野田ブロックチームミニストリー 宇部・北若山・高千帆教会 アレックス神父 三喜田虎太神父 アルカラ 神父 池尻廣幸 神父	中村健三 神父	愛徳修道士会
樽灯センター 笠岡教会	早副 穰 神父 豊田尚臣 神父 ミッシェル神父 瀧井英昭 神父	下関ブロックチームミニストリー 細江・彦島・長府教会 リントホルスト神父 百瀬文晃 神父	下関ブロックチームミニストリー 細江・彦島・長府教会 リントホルスト神父 百瀬文晃 神父	中井 淳 神父 林 尚志 神父 高橋義博 神父 西山和男 神父 モレノ 神父 バラ 神父 李 相源 神父 佐々木良晴神父 山根敏身 神父 瀬戸勝介 神父 ラフオント神父 近藤 信 神父 裏辻洋二 神父 デ・ヴァルス神父 マクガレル神父 三宅秀和 神父 河村剛 修道士 ヘンゼラー神父	中井 淳 神父 林 尚志 神父 高橋義博 神父 西山和男 神父 モレノ 神父 バラ 神父 李 相源 神父 佐々木良晴神父 山根敏身 神父 瀬戸勝介 神父 ラフオント神父 近藤 信 神父 裏辻洋二 神父 デ・ヴァルス神父 マクガレル神父 三宅秀和 神父 河村剛 修道士 ヘンゼラー神父

(一面の続き)

る・・・」とありますように私たちは「平和の使徒」として社会の中でその証しをたてるために派遣されています。みんなで祈り協力一致して今年度の教区のモットーを実現して主のみの完成のために最善を尽して参りましょう。

(三) 東日本大震災、去る三月十一日、世界最大の大地震が東日本におこり尊い人命をも含めて大きな災害に見まわれました。

犠牲となられた多くの皆様には心からのお悔みとお見舞いを申しあげます。あわせて福島の原発は大きな問題をもたらした予断をゆるさない状況にあります。亡くなられた多くの方々、また厳しい状況にある被災者、避難者の皆様のために、神を通して慈しみと助けが与えられますようお祈りいたしましょう。

すでに多くの方々がいろいろな方法で支援されていますが、広島教区でも「広島教区災害サポートセンター」を立ちあげ、今後現地の状況をみながら教区

として被災された方々、被災教区の方々のため、できることを考え続けて実行して行きたいと思えます。今回の災害の傷あとは今後もずっと続くことかと思えます。私たちは祈りと同時にできる限りの支援によって協力一致してみんなの平和と幸せのために最善を尽して参りましょう。

(四) 五月二日、故ヨハネ・パウロ二世教皇様が神の特別なお恵みによって「福者」として列福されることになりました。

私たちにとってこのうえない大きなよろこびであり光栄の限りです。私たちは来広されて以来今日まで、祈りと記念の式典・行事を続けて参りました。今後は「列聖」されますように祈り、取りつぎを願って参りたいと思えます。

広島教区では五月一日(日)を列福感謝の記念日とし、教区全体でお祈りし、感謝し、お祝いしたいと思います。どうぞ皆様心を合わせて感謝をおさげ下さい。そして平和の巡礼者として来広された故ヨハ

【年間テーマについて】

二〇一一年二月十三日の広島司教区宣教司牧評議会にて、二〇一一年度の教区年間テーマ、サブテーマが話し合われ、「平和の使徒となろう」を社会における信仰の証しと決定された。年度テーマとするため、期間は二〇一一年四月一日から二〇一二年三月三十一日まで。

このサブテーマを導き出すため、昨年行われた

2011年度 教区年間テーマ 「平和の使徒となろう」 ~社会における信仰の証し~

二〇一〇広島教区代表者会議の分科会から出されたキャッチフレーズ、また、今年一月に行われた広島教区司祭大会の分かち合いでの意見を参考にして議論された。サブテーマのポイン

「会憲章」「信徒使徒職に関する教令」「教会の宣教活動に関する教令」の中にある、現代社会において「教会が地の塩となり、教会を存在させ活動的なものとする」ことが、信徒に与えられた使命である。『教会と世間において、神の民としての自分の役割をキリスト自身と同じ熱意をもって果たす』『福音の精神を世間に



浸透させるパン種になる』『自分が生活している場所で、模範的生活とことばのあかしをもって、聖霊の力を現さなければならぬ』である。この度の東日本大震災による想像を絶する惨状に直面して、このサブテーマは、まさに私たち教区民に対して「何を証しするのか」「何をしなければならぬのか」と問うものである。年間テーマに関して、引き続き取り組むべき課題は『どのように教区内に浸透させていくか』である。

そのためには、サブテーマを教区民一人ひとりのものとするために、地区、ブロックおよび教会の中で、テーマについての話し合い、分かち合いを実施する必要があります。

教区全体の取り組みの基本としては、各地区(ブロック含む)の推進力が期待されるため、各地区で開催される地区宣教司牧評議会や様々な集いの中で議題として取り上げてもらい、年間を通して地区・ブロック内の教会に対し、「教区テーマの浸透と一致」についての分かち合いや議論を行うことを期待したい。

【教区の動き】

昨年の二〇一〇広島教区代表者会議(十一月二十三日)後の教区の動きとしては、二月十三日の教区宣教司牧評議会の開催、その中で、冊子「平和の使徒となろう(ガイドライン)」の

ネ・パウロ二世の平和のメッセージの実現に励んで参りましょう。皆様のうえ

に神の祝福をお祈りいたします。

ワールドワイド マリッジ エンカウンター ウイークエンドのお誘い

マリッジ エンカウンター(ME)ウイークエンドとは、家庭や社会の中にある、様々な関わりを基礎となつていくための方法を深めていくための方法を体験的に身につける二泊三日のプログラムです。夫婦がお互いを、そして結婚という結びつきを新鮮な目で見直し、二人の将来を見つめるとてもよい機会です。

また、自分達二人と神との関係、自分達と周囲の人々との関係をも深く見つめるひとときです。夫婦だけでなく、人々の関わりを深めたいと思つている司祭、修道者も参加できます。
MEウイークエンドはカトリックの運動です。
日時 十月八日(土)二十時～十日(月)十八時
場所 福山暁の星学院研修センター
対象 夫婦(結婚年数、信

者・未信者を問わない)、司祭、修道者
申込・お問い合わせ
富山(福山教会)
○八四一九六二二二九五
田中(福山教会)
○八四九二八一六八七五
山縣(幟町教会)
○八二四三三二五四五六

私は、マリッジ エンカウンターに大きな期待をかけています。(前教皇 ヨハネ・パウロ二世)

「ヨハネ・パウロ二世教皇 列福記念ミサ」のお知らせ

前教皇ヨハネ・パウロ二世が五月一日に列福されることを記念し、世界平和記念聖堂で列福記念ミサが行われます。
日時 五月一日(日)
午後一時

内容 記念ミサ、レセプション。
配布、パネル展示など。

改定のための『見直し専門委員会』の設置が承認された。この『見直し専門委員会』を中心に、集中的に改定の素案を作成する。作成された素案は、五月に各地区で開催される地区宣教司牧評議会に提案され、意見を募る予定である。その後、六月十九日に開催予定の地区宣教司牧評議会において確認を得る予定である。改訂版の冊子は、以降、印刷

司教叙階記念と司祭・修道者の ダイヤモンド・金祝のお祝い

六月五日(日)三末篤實司教叙階二十六周年記念と司祭・修道者のダイヤモンド・金祝のミサとお祝いが、山口教会で行われます。時間は午後二時から。

◆ダイヤモンド祝◆ ◆イエズス会(細江教会) リントホルスト・トマス神父

一九五二年八月二十二日叙階

◆金 祝◆ 広島司教区(岡山教会) 早副 穰 神父

一九六一年三月二十一日叙階

- ・援助マリア修道会(福山修道院)
シスター 馬場 智恵子
シスター 森元 良子
シスター 鈴木 啓子
シスター 高戸 千代
一九六一年五月二十一日入会

されたものが発刊される流れである。

ご復活の喜びと大震災の悲しみが交錯する中、既に日常生活においては新しい年度を迎え、新生活をスタートされた方々も多いこの時期、各地区、小教区において二〇一一年度の教区年間テーマ、サブテーマに関する取り組みと浸透についての具体的な活動を開始

されているだろうか？

「広島教区災害サポートセンター」が立ち上がった今こそ、わたしたち教区民すべての信者が、サブテーマの趣旨の理解と、「社会における信仰の証し」を意識し、ミサ、祈り、様々な活動を通して「イエスの弟子としての生き方をどう実践していくか」を心に留めた一年としたい。

(平和の使徒推進本部)

広島教区 司祭人事異動(新任地 ← 前任地)

《教区司祭》

山口 道晴 神父 福山教会主任 ← 尾道教会主任
服部 大介 神父 尾道教会主任 ← 福山教会主任

《イエズス会》

李 相源 神父 山口島根地区長
← 下関ブロック・モデラートル・細江・彦島担当
柴田 潔 神父 山口教会助任 ← 新司祭
中井 淳 神父 下関ブロック・メンバー ← 新司祭
百瀬 文晃 神父 下関ブロック・細江・彦島担当
← イエズス会山口修道院
田丸 篤 神父 下関ブロック・モデラートル・長府担当
← 下関ブロック・長府担当
西山 和男 神父 津和野教会主任 ← 津和野教会主任代行
高橋 義博 神父 出雲教会主任 ← 出雲教会主任代行
佐々木良晴 神父 サバティカル ← 山口・島根地区長
薄田 昇 神父 教区外 ← 出雲教会主任
李 聖一 神父 教区外 ← イエズス会幟町修道院

東日本大震災、1ヶ月たった今もなお瓦礫の山



宮城県牡鹿郡女川町内の様子



宮城県石巻市内の様子



仙台教区 カテドラル 元寺小路教会内部の様子
(度重なる余震で一部損壊、使用不能の状態になっている)



シスターズリレーに参加して

石巻ベースで五泊六日を過ごし、仙台に戻ったところでこの原稿を書いています。石巻、女川で見た景色が、私の脳裏に焼き付いています。十六年前、神戸灘区で地震の恐ろしさはそれなりに体験したのですが、

今回目の前に広がっていた光景は、まさに想定外。津波の破壊力にただただ息を飲むばかりでした。自然の猛威、という表現が頼りなく、軽く響きます。ましてや福島原発の目に見えない恐怖。「人が何かに気づくため、というにはあまりにも犠牲が大きい。」昨日会った被災者の友人がこう漏らしました。「中には、『お孫さんを連れて県外に行かれたら?』と言ってくださる方もあるけど、ここ仙台に基盤を置いて生きている者

はそんなに簡単に動けるわけではないし、ここで生きていかなきゃならないのよ」とも。動いてしまえば安全にな

る。余震もなければ、放射能の脅威からも遠ざかれる。けれどそうできない。そうしない。その中に、私は十字架の上に留まり続けてくださったイエスの姿を見えています。東北、関東になんと多くの十字架が並んでいることでしょうか。その十字架の元に留まりますか。いつまで? どのように?

季節は復活節へと変わっても、私たちはキリスト者として問われ続け、そして答え続けていく覚悟が求められています。広島教区らしい協力とは何なのか。皆さんと一緒に問われ、応えていきたいです。

四月十三日、仙台教区サポートセンターにて。

平和の使徒推進本部

シスター山本紀久代



シスター山本 (右から2番目) と原田神父 (右端)

東日本大震災被災者支援のための

「災害サポートセンター」を教区内に開設

東日本大震災の甚大な被害を目的の当たりにし、三月二十六日、三末司教の呼びかけで、「広島司教区災害サポートセンター」が開設された。担当は、本部事務局長の原田豊己神父。

当センターでは、教区内の各小教区から寄せられる募金活動・災害ボランティア協力体制、学校法人等諸団体が決定した被災者受入れ体制の内容等について、情報の集約および発信を定期的にを行っている。

現在、広島司教区ホームページの「災害サポートセンター通信」コーナーに、日本語、英語、スペイン語の三ヶ国語で掲載している。災害サポートセンターへのお問い合わせは、広島司教区本部事務局内。

●電子メール

pax@hiroshima.catholic.jp

●電話

〇八二二二二一六〇一七

●広島司教区ホームページ
http://hiroshima.catholic.jp/

高松教区・大分教区 新司教任命



諷訪 榮治郎 被選司教



浜口 末雄 被選司教

教皇ベネディクト十六世は、三月二十五日、高松教区の新しい司教に大阪教区司祭の使徒ヨハネ 諷訪榮治郎師（六十三歳）を、三年間司教座空位となっていた大分教区の新しい司教に長崎教区司祭のパウロ浜口末雄師（六十二歳）を、それぞれ新司教に任命することを発表した。司教叙階式は、二〇一一年六月に行われる。

J-CARM 広島便り

教会は社会の中で 神の国をつくるのです

倉敷教会 野中泉神父

昨年の九月にあつたブラジル人司牧者の集まりで、担当司教の松浦司教様の話と現在私が担当しているブラジル人の様子を少し書きたいと思います。

司教様は、移動者の司牧は移動者が担当ではなく小教区が担当すべきで、特に子ども信仰教育は小教区が考えなければならぬと言われました。日本の教会は、日本人の教会ではなく日本にある教会として理解し、日本社会の中で神の国を告げ知らせるために派遣されています。移動者であるキリスト者も同じように派遣されていて、言葉の違う閉ざされた社会、教会で遭遇する様々な問題を解決していかなければなりません。このことについて三つの段階を示されました。

(一) 受け入れ・司祭やシスター司牧者が声をかける。この時に同じ国の人や日本人を紹介する。

(二) 参加と協力…典礼やバザーなどで参加協力する。

外国語のミサの扱いは慎重に、一つになるということをいつも頭においていなければならぬ。日本人の教会という意識を乗り越え、移住者も教会のメンバーであるという意識を持つために司牧者は重要な役割を持っている。

(三) 主体的にかかわる…日本の教会のメンバーとしてその決定に参加する。グループの代表として参加すると、グループの利益だけを考るといふ問題が出てくる。

それぞれの小教区では様々な段階にあると思いますが、目標を確認しておくべきでしょう。教会は社会の中で神の国を築くのです。様々な国の人と同じ共同体のメンバーとして共同するときのしるしとしての使命を果たすことができるのでしよう。

さて、尾島神父様がブラジルに帰って、現在、私と

アルナルド神父様がポルトガル語のミサをしています。この不況で、工場の閉鎖や縮小により、多くのブラジル人が帰国したり他の所へ移ったりして、ミサに参加する人も少なくなっています。日本に住むことを決めている人もいます。

東広島の共同体の中にもそういう人たちがいて教会の活動に積極的に参加し、年に一回フェジョアードというブラジルの料理を準備し、ビンゴゲームをする小さな祭りを行っています。その祭りの収益の一部をJ-CARM広島や野宿者を支援する会などに寄付しています。小さな共同体ですが、もう四年くらい続いています。神の国を築くしるしとなっていけばと思います。



東広島教会

地区便り

岡山・鳥取地区

「新春への願い」

《地区長荻喜代治神父》

私たち広島教区司祭は、年の黙想として二月二十一日から二十六日まで高松教区司祭との合同で北海道の男子トラピストで過ごしました。修道士さんたちは朝三時四十五分の祈りからミサ・食事・労働、そして夜の八時の就寝まで「祈りと

《事務局長北川弘子》

一月十日地区宣教司牧評議

「労働」を中心に過ごしておられます。今回も二十年前と同様、大自然の中、大修道院長様の指導のもと修道士さんたちの祈りに支えられ静かな深い祈りの生活の中で過ごす事ができ感謝しております。私たちの一年の信仰生活もいつも祈りを中心とした生き方を大切にしたいと改めて思っております。

会でも話し合った教区テーマが信徒全体に浸透して、いなく委員だけのものに終わっていることは残念。いかに実践していくか課題は多いが、あせらずに時間をかけて具体的に、祈りながらやっていきたい。「祈る共同体」「喜んで愛をもって奉仕する共同体」でありたい。「仲良しクラブ」ではなく、建設的対話を行い、信仰の恵みのうちに交わり、地区の推進力を！

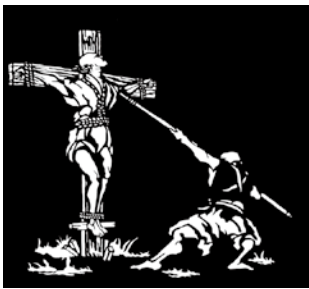
広島地区

《地区宣教司評議会》

1月16日(日)、カトリック会館多目的ホール(広島市幟町)で、2010年度第3回広島地区宣教司牧評議会が開催されました。議事後、出席者たちは3グループに分かれて「分かち合い」を行い、昨年11月の「教区代表者会議」の成果をどう生かしていくかについて話し合いました。

《キリシタン殉教記念祭》

2月11日(金)、第28回「広島キリシタン殉教祈念祭」が行われました。午前9時30分、広島市西区己斐の殉教記念碑前で三末司教様と共に祈りを捧げた後、参加者は観音町教会(広島市西区)まで約1.5キロの道のりを徒歩で移動。同教会では「殉教祈念ミサ」に引き続き、肥塚倅司神父様が「広島のキリシタンに学ぶ。…芸備キリシタン史料(H・チースリク編著)を読んで…」と題する記念講演を行いました。



観音町教会にある殉教者の切り絵 (廿日市教会・田村さん制作)

《正平協広島からのお知らせ「原発問題リーフレット発刊」》

カトリック正義と平和協議会から「原子力発電は“温暖化”防止の切り札ではない！」が発行されました。現在、福島原発では大変な事故が起きています。原発についてお知りになりたい方関心がある方、5部100円程のカンパでお分けてきます。お問い合わせは、広島司教区正平協広島まで。

広島教区の施設 ⑪ 「愛と奉仕をモットーに」 サビエル高等学校

フランシスコ・サビエル生誕の地で生まれた「キリスト・イエズスの(女子)宣教会」が経営の母体で、二年後には創立五十周年を迎えようとしています。女子校として発足しましたが、時代の流れでしようか、二〇〇二年度には男女共学、二〇〇五年にはI類II類コースを導入し、「心の教育」を土台に、学力の向上とボランティア活動にも力を入れています。

プレゼントと受け止め、どのような生徒であろうとも、長所・欠点まるがかえで、ありのままの姿をありのままに受け入れる、あたたかい家庭的な雰囲気包まれた学校を目指しています。少人数の学校であることも幸いし、教職員と生徒の距離が近く、また卒業生が数多く訪ねてくるのも本校の特色の一つかもしれません。

フランシスコ・サビエルが宣教された山口で、「サビエル」の名を冠する本校は、サビエルの勇気と進取の気風のもと、「愛と奉仕」をモットーに、「①祈る(心を育てる)、②学ぶ(知性を磨く)、③行動する(他者のために生きる)」、を教育の三本柱にすえています。

時代がどのように変わろうとも、キリスト教的生き方を方向づける教育理念や価値観は変わることがありません。「知意」の調和のとれた円満な人格を育てること、他者のために生きることを可能にする教育ができるように努めています。

(校長栗田陽二郎記)



生徒一人ひとり、神さまから贈られた特別な

山口・島根地区

＊山口・島根地区 教区代表者会議報告会

三月二十一日(月)、萩教会にて信徒使徒職協議会主催で開催。

十時からの報告会には、出雲教会を除く十七小教区から約一五〇名の参加がありました。平和の使徒推進本部からは、本部長の祇山さんとシスター山本が参加。

「東日本大震災」被害者のために全員で黙祷して報告会を始めました。

午前中は、信徒協事務局長の小嶋さん(萩)と信徒協会長の福永さん(彦島)による代表者会議事前・事後アンケートの報告、会議に参加した人たちによる分科会四テーマの報告。祇山さんの代表者会議のまとめと今後の方針についての話。午後からは、十のグルー



加藤 信也 神父

プに分かれて昼食と分かち合いをし、歌と信徒協顧問司祭の加藤神父(山口)のまとめと挨拶で十五時に終了した。



萩教会

＊地区職員の集い：四月六日(水)、地区事務局にて。

《養成関係》

＊信者養成小委員会：四月十八日(月) 地区事務局にて。二〇一一年度養成研修計画の日程・内容確認等。

＊祈りの体験研修二期目

ラフオント神父と信者養成研修会『信徒の神学』(百瀬神父) および社会教説や聖書入門の二〇一一年度養成コースの案内を少年の集い「乙女峠巡礼」の案内と一緒に全小教区分を三月末までに各地区センターへ発送した。

海峡からの風 21

下関労働教育センターだより

私は下関労働教育センターを支える会の結成から五年、代表と言う名の下働きを仰せつかっておる者です。

ターの動きと流れを紹介させて頂けることに心より感謝いたしております。これからは所長林尚志神父も含めて輪番で寄稿させていただきます。

会の役割の一つに、センターとセンターに関わる活動の広報があります。その媒体として、年に三回の通信「海峡からの風」の発行、毎月末にメールマガジンの発信、mixというSNSの中でコミュニケーションを行っています。と同時に、センターが所属するイエズス会の管区報とこの広島教区報に、前者を私が、後者を副代表の廣崎さんが、と分担して投稿して参りました。それらが一定以上の成果を生み、センターの利用・活動が一層多彩かつ深みを増し、また多くの方々が支援して下さいるようになっており、そして負しております。そして引き続きこの場でセン

ターは、この春、新しい力を迎えます。昨年叙階した中井神父が、センターに積極的に関わるミッションを受けて、下関ブロックに赴任されます。社会司牧センターとして、また市民運動、社会問題・労働問題に関する活動拠点として、東アジアに開かれた海につながる「風」を更に強く、優しく広げていくことが期待されます。



大城 研司 氏

さらには下関労働教育センターは、この春、新しい力を迎えます。昨年叙階した中井神父が、センターに積極的に関わるミッションを受けて、下関ブロックに赴任されます。社会司牧センターとして、また市民運動、社会問題・労働問題に関する活動拠点として、東アジアに開かれた海につながる「風」を更に強く、優しく広げていくことが期待されます。

このような平和な文章を準備していたところに、大災害。東日本大震災被災者、福島原発事故被害者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

上関原発計画を強引に進めようとする中国電力に抗議し、責任回避し逃げている県知事に文句を言い、原発推進を国策とする政府に

はらわた煮えくりかえる日々を過ごしている方がよっぽど良かった。そして、今まで「反原発」と言いながら、大した事もせず、原発を止めることができなかった己の弱さをお許し下さい。

この原稿を書いている3月末、下関労働教育センターと宇部ときわ湖畔ユースホステルで被災者避難者の受け入れを表明しました。祈りと心をこめて。

支える会代表 大城 研司



青少年の活動

日韓学生交流会に参加して

二月一七日～二十一日、^{マサン}韓国の馬山教区で行われたカトリック日韓学生交流会に、日本からの学生十四人と馬山教区の青年十七人が参加し、交流をしました。

特に印象に残っているのは馬山教区のアン・ミョンオク司教様の講話と分かち合いです。講話の内容は、今回のテーマである「すべての人を一つにしてください」

い(ヨハネ十七・二十一)」でした。司教様はまず、なぜ人は一つにならないといけないのか話されました。人間は一人では決して生きていけないのでどこかで誰かに支えられたり、助けられたりしている。そのことを理解したうえで自分も苦しいけど隣の人はもっと苦しいと思えば譲ること、たとえ自分が死んでも相手を助けることができれば、それは「生きる」ことになることから自己犠牲が必要になり、その助け合いの形を

維持するために努力し相手のことを確信を持つて信頼し、信じていくことが大切だと言われました。

講話後の分かち合いでは、どうすれば皆が一つになれるか話し合いました。国が違っても同じ信仰を持つ一人の青年であることには変わりないと強く実感することができました。

今回、日本の学生や韓国の青年達と繋がりを持つたこと、韓国の文化を体験できたこと、どれもがとても貴重な経験になったと思います。

ます。この経験を糧として神様を信じる私たちが自分の物を持たず、すべてを分け与えるための勇氣を持ち、皆が一つになれることを信じて生きていきたいと思えます。

(呉教会・楠本仰司)

中国ブロックカトリック 高校生大会

三月二十七日～三十日、山口のサビエル高校で中国ブロックカトリック高校生大会が開催されました。四十五回目となる今回の

テーマは『つなぎめく僕と私の○○バージョン』。大会では、まずつながりとは目で見えるものだとしたらどんな物かと考えました。一本の木の枝からなるつながり、糸でつながるつながり、そして水の波紋をつながりだと考える高校生達は一生懸命話し合っていました。そして自分の周りのつながりについて改めて考える時間、各々のテーマに分かれて考える時間もありました。



幟町教会 協力司祭
フィリピン外国宣教会

ステイブ神父

昨年、広島に来られたステイブ神父様にインタビューをしました。

Q1. 出身はどちらですか？

フィリピンのサマル島で



<68>

す。魚がたくさん捕れる漁師と農家の街です。

Q2. 日本の好きなところを教えてください。

沖繩かな。自分が育ったところと似ているから。

Q3. 司祭になろうと思っ

たきっかけは？
一九六〇年頃、キューバ危機のときに、フィリピンで

は平和を祈るためにフアテイマのマリア像が各地を巡礼していました。私の住んでいる街でも巡礼が行われる予定でしたが、なかなかマリア様が届かず長い時間待っていました。やっと届いたマリア様の前で、一人一人お祈りをしました。これが初めて司祭になりました

Q4. 司祭になって一番の思い出は？
叙階式です。黙想の街、タガイタイの神学校で行われ

ました。四〇名の司教様と一〇〇名を超える司祭が集まり、とても大きなお祝いの日でした。

Q5. 教区の皆さんにメッセージをお願いします。
毎日の生活の中で祈りを大切にしてください。人々との間には必ず神の存在があります。目的地は神様との愛の復活です。復活祭の前に悪と戦い、皆様が良い復活祭を迎えられますように。



東日本大震災。被災者の方々が安心して暮らせる日が早く訪れるように、私にできることは祈ること。祈りのうちに過ごしたい。